



令和2年度 國學院大學

# 神道文化学部

神道文化学科

GUIDE BOOK

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

## 感謝の気持ちを忘れずに

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんにとってここに至るまで道のりは、山あり谷ありの、決して平坦な道ばかりではなかったことと思います。しかし、そうした試練は、誰もが経験することであり、自分だけがひとり苦労や不幸を背負ってきた、と思っははいけません。起伏ある道のりを通過する毎に、人は成長してゆくのであり、皆さんが今日の晴れの日を迎えることができたのも、そうした道のりを歩んできたからです。

そこで皆さんにお願いしたいことがあります。この日を迎えることができたのは、皆さんの自力のほかに、他力があったからに違いありません。皆さんを支援したり、一緒に伴走したりして下さったご父兄や諸先生、そして友人等がいたことでしょう。そうした方々に心から感謝の意を表して下さい。これができれば、皆さんは人よりももう一步成長することでしょう。それを期待しています。

本居宣長先生の御著書に『玉鉦百首』という神道的道歌集があります。「玉鉦」とは、道の枕詞ですが、この道とは具体的には「神の道」を指します。「神の道」とは神道のことですが、宣長は儒者のように聖人になるための正しい生き方を唱えたのではなく、日本人としての立派な生き方を、神様やご先祖様にならって行いなさい、とすすめたのです。それを道歌にして纏めたのが、この書です。そのなかで「父母はわが家の神」と歌った一首があります。

父母はわが家の神わが神とこころつくしていつけ人の子

東アジアでは、わが身は父母の遺体なり、と教えます。この身体は、両親がこの世に残して下さった大切なものだ、ということです。ですから、わが身を粗末にする者は、親(祖先)を悲しませる不孝者と非難されました。これは大切な「孝」の教えです。それに対し、わが国の伝統に則って「孝」を教えたのが、上記の歌であります。子はどれだけ親を敬愛し、孝行を重ねても、親が子を慈しむ真心(慈愛)には到底かないません。ですから、せめて親を神様(氏神様)にお仕えする時のような真心をもって敬い申し上げなさい、と教えたのです。

皆さんの多くが、神様と関わる神道学や宗教学を修得するために、本学部を志望したことと思います。ならばこそ、ご父兄を敬い、御恩を忘れず、感謝する真心を養って下さい。それが神明奉仕の第一歩だからです。

皆さんの大学四年間が、有意義なものになりますことを祈念してやみません。

神道文化学部長 西岡 和彦

令和2年度

### 國學院大學神道文化学部 神道文化学科 ガイドブック 目次

感謝の気持ちを忘れずに

神道文化学部長 西岡和彦 …… 1

#### I 理念と特色 …… 2

神道文化学部の教育研究上の目的 …… 2

ディプロマ・ポリシー …… 2

神道文化学部の特色 …… 3

教員紹介 …… 4

神道文化学部の行事 …… 14

観月祭 …… 14

成人加冠式 …… 15

奨学金制度 …… 16

学部神社実習生制度 …… 17

#### II 奉職・就職 …… 18

神社関係の奉職について …… 18

神道研修事務課からのお知らせ …… 18

就職について …… 20

各種講座について …… 20



### Ⅲ カリキュラムと履修 …… 21

- 履修について …… 21
- 神道文化学科のカリキュラム …… 22
- 専門教育科目 …… 23
  - カリキュラムポリシー …… 23
  - 専門教育科目一覧 …… 24
- 専門教育科目の履修について …… 26
- 履修モデルについて …… 26
- 神職資格課程を取得する場合 …… 27
- 明階総合課程について …… 27
- 宗教文化士について …… 31
- 演習について …… 32

### Ⅳ キャンパスライフ …… 33

- 学生生活を彩る
  - 神道文化学部イベント …… 33
- 資料室・修学相談室について …… 34
- オフィスアワーについて …… 34

### Ⅴ 入学案内 …… 35

- アドミッション・ポリシー …… 35
- 神道文化学部の入試制度 …… 36
- オープンキャンパス …… 38

# I 理念と特色

## 神道文化学部の教育研究上の目的

神道文化学部は、神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする。

日本の伝統文化の根幹として長い歴史と伝統を有する神道は、宗教であるとともに、ことさら「宗教」として意識されることの少ない生活規範や習俗・慣習でもあります。

神道文化学部は、こうした神道の持つ二面性ないし両義性、さらには多様性を有する神道を体系的に学び、併せて内外の宗教と宗教文化に対する知識を習得します。このことにより、本学が建学の精神として掲げる「主体性を保持した寛容性と謙虚さの精神」を涵養し、現代社会に息づいている日本の伝統文化を再認識するとともに、神道をはじめとする宗教の理解を深めることにより、価値観が混在する現代社会のさまざまな課題に対応できる力を養いつつ、日本文化と異文化を結ぶ「懸け橋」となる、創造力あふれる人材を育成します。

### ディプロマ・ポリシー

神道文化学部(神道文化学科)は、学生が学部の専門教育において到達すべき教育目標を以下のように定めます。

#### A 知識・技能

- (DP-A1) 神道を中心とする日本の伝統文化と社会のあり方に関する基礎知識を身につけている。
- (DP-A2) 国内外の宗教文化に関する基礎知識を身につけている。
- (DP-A3) 神道文化や宗教文化および日本の伝統文化を社会の中で継承・展開するための知識・技能を身につけている。

#### B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 神道・宗教に関わる古典や資料の理解にもとづく思考力や判断力を身につけている。
- (DP-B2) フィールドワークや実技・実習などによって、現代社会の諸事象を考察し、判断する力を身につけている。
- (DP-B3) 神道文化・宗教文化について身につけた知識・技能を文章・言語で表現できる。

#### C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 神道を中心とする日本の伝統文化を自ら協働して学ぶことができる。
- (DP-C2) 国内外の宗教文化について多角的な視点から議論し協調することができる。
- (DP-C3) 多様な人々と協力しながら課題解決に取り組むことができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位を授与します。

神道文化学部の正課の教育では、日本に根差した文化を学ぶ機会を設けています



「宗教考古学Ⅰ・Ⅱ」



「宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ」

# 神道文化学部の特徴

## 学業と生活の両立がしやすいフレックスコース(昼夜開講)制

神道文学部ではフレックス開講制を取っています。時間帯を昼と夜に分け、それぞれ同じカリキュラムに基づいた授業を実施します。夜間主のコースを「フレックスAコース」、昼間主のコースを「フレックスBコース」といいます。コースは入試の際に選べますが、以後の変更はできません。

### フレックス開講制の授業時間帯(渋谷キャンパス)

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	8:50~10:20						
2	10:30~12:00						
3	12:50~14:20						
4	14:30~16:00						
5	16:10~17:40						
6	17:50~19:20						
7	19:30~21:00						

■ 昼間授業時間帯
 ■ 夜間授業時間帯
 ■ 共通授業時間帯

フレックスコースは2つありますが、原則どの時間帯の授業も受講できます。ただし、次の点については特に注意してください。

1. 専門基礎科目(⇒p.24)と英語の科目(⇒p.21)は、フレックスAコースであれば夜間時間帯、フレックスBコースであれば昼間時間帯に受講することになります。
2. 共通時間帯のみ開講の授業があります。
3. 「フレックス特別給付奨学金」の受給学生は、昼間時間帯の授業を履修できません。

## 学問の関心にあわせて選べる学科内コース(神道文化コース・宗教文化コース)

神道文化学部では「神道文化コース」と「宗教文化コース」の2つのコースを設けています。3年次にいずれかを選択することになります。学科内コースも選択後の変更はできませんが、どの授業でも履修できます。

### 神道文化コース

神道に関する諸分野を学び、神職になるための教養を身に付けるコースです。内外の宗教文化についても学ぶことで、幅広い知識を身につけ、現代の神道に関わる諸課題に対応できる人材になることを目指します。

### 宗教文化コース

内外の宗教文化を主として学び、研究するコースです。宗教文化の比較研究を通して、神道を中心とした日本文化の特色を捉え、日本の宗教文化を世界に発信できるような人材となることを目指します。

## 主体的・意欲的に学べる演習を柱の1つとしたカリキュラム編成

➔ カリキュラム・演習については、「Ⅲ カリキュラムと履修」(p.21~)を参照。



「神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ」



「神道教化概論Ⅰ・Ⅱ」

# 教員紹介

教授

## 石井 研士 ISHII Kenji

**令和2年度担当科目** 宗教学Ⅰ・Ⅱ 宗教学概論(専攻科)  
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る

**出身地**

東京都

**専攻領域**

宗教学 宗教社会学

**最終学歴**

東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程修了

**学位**

博士(宗教学)

**所属学会**

神道宗教学会 日本宗教学会 宗教法学会 明治聖徳記念学会

**主な著書・論文**

『銀座の神々—都市に溶け込む宗教』(新曜社、平成6年)

『戦後の社会変動と神社神道』(大明堂、平成10年)

『日本人の一年と一生涯』(春秋社、平成17年)

『結婚式』(NHK出版社、平成17年)

『増補改訂版 データブック 現代日本人の宗教』(新曜社、平成19年)

『テレビと宗教』(中央公論新社、平成20年)

『バラエティ化する宗教』編著(青弓社、平成22年)

『神道はどこへいくのか』編著(ペリかん社、平成22年)

『神さまってホントにいるの?』(弘文堂、平成27年)

『プレスステップ宗教学(第2版)』(弘文堂、平成28年)

『渋谷学』(弘文堂、平成29年)



山野を跋涉して  
新しい領域を捜そう

私の学問上の関心は、現代社会における宗教の意味もしくは役割です。この点を明らかにするために、都市化・過疎化と宗教、情報化と宗教という二つの具体的なテーマを設定しています。都市化・過疎化と情報化は現代社会を特徴づける大きな流れであり、都市化・過疎化と情報化に精神文化の中核をなす宗教がどのように関わっているかを理解することで、現代日本の文化の現状や、できれば将来像を垣間見たいと思っています。

先進諸国の一員といわれる日本社会自体にも宗教は深く根を下ろし、重要な意味を担っているようです。あたかもないかのごとく隠されている宗教の現代的な意味を考察するのが、私の研究目的です。

教授

## 遠藤 潤 ENDO Jun

**令和2年度担当科目** 神道思想史学Ⅰ・Ⅱ 神道文化基礎演習  
神道文化演習 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

**宗教学演習テーマ** 「非日常的な世界とそこに存在するものを考える」

**出身地**

兵庫県生まれ、神奈川県育ち

**専攻領域**

宗教学 日本宗教史 神道・国学思想

**最終学歴**

東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程単位取得

**学位**

博士(宗教学)

**所属学会**

神道宗教学会 日本宗教学会 日本思想史学会

**主な著書・論文**

『平田国学と近世社会』(ペリかん社、2008年)

『教祖論—教団論からみた平田国学—信仰・学問と組織—』

(幡鎌一弘編『語られた教祖』法蔵館、2012年)

『平田国学と幽冥思想—近世神道における死の主題化—』

(島園進ほか編『日本人と宗教3 生と死』春秋社、2015年)

『平田篤胤「仙境異聞」の編成過程—語りと書物のあいだ—』

(『國學院雑誌』120-7、2019年)



テキストを  
ていねいに読もう

宗教学や神道学に限らず、人文学のどの学問でも一番の基礎となるのは、原典であれ論文であれ、文献を正確に理解しようと努める姿勢です。学生のみなさんは日々忙しく感じているかもしれませんが、学生生活を離れてみれば、学生時代はかなり時間の余裕がある時期だったことがわかります。せっかくのこの時期に、ものをていねいに読んで、じっくり考えて下さい。ゆっくりやっでできないことは、急いでやっでもなかなかうまくできないのではないのでしょうか。あせることもあるでしょうが、むしろ「時間をかけられるのは今だけ」と覚悟を決めて下さい。(よい意味で)慣れてきたら、スピードも自然に上がってくることでしょ。

教授

## 黒崎 浩行

KUROSAKI Hiroyuki

**令和2年度担当科目** 神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ  
神道教化システム論 神道文化基礎演習  
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ 神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ  
**宗教学演習テーマ** 「現代社会の諸課題と宗教文化」

**出身地**

島根県松江市

**専攻領域**

宗教学 宗教と情報 現代神社と地域社会

**最終学歴**

大正大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得

**学位**

博士(宗教学)

**所属学会**

日本宗教学会 「宗教と社会」学会 神道宗教学会

**主な著書・論文**『神道文化の現代的役割—地域再生・メディア・災害復興—』  
(弘文堂、2019年)

『地域社会と神社・祭り—人口減少と地域再生の中で』

(堀江宗正責任編集「いま宗教に向きあう1 現代日本の宗教事情  
国内編1」岩波書店、2018年)

『震災復興と宗教』(共編著、明石書店、2013年)



### つながりのなかで学ぼう

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、平成28年4月14・16日に発生した熊本地震をはじめとして、近年、大きな災害が頻発している。多くの人たちが救援・支援のために現場へかけつけ、そこで失われた命の鎮魂と、復興に向けさまざまな支えあいのつながりが生まれている。宗教者・宗教団体や地域の宗教文化は、そこでどのような役割、働きをなすのか、が課題として浮かび上がっている。

また、それはひるがえって日常の地域社会における宗教の関わり方にも再考を促すものとなっている。

研究者として、またときに学生を引率する者のひとりとしてこうした現場に関わりながら、ともに学んでいくことを大切にしていきたいと考えている。

教授

## 齊藤 智朗

SAITO Tomoo

**令和2年度担当科目** 神道概論Ⅰ・Ⅱ 神道文化基礎演習  
国学概論Ⅰ・Ⅱ 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ  
神道概論(専攻科)

**出身地**

東京都

**専攻領域**

宗教学 近代神道史 近代日本宗教史

**最終学歴**

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

**学位**

博士(宗教学)

**所属学会**

神道宗教学会 明治聖徳記念学会 日本宗教学会

**主な著書・論文**

『井上毅と宗教』(弘文堂刊、平成18年、単著)

『生田神社史』(生田神社編/国書刊行会刊、平成19年、共著)

『大社町史中巻』(大社町史編集委員会編/出雲市刊、平成20年、共著)

『日本神道史』(岡田莊司編/吉川弘文館刊、平成22年、共著)

『事典 神社の歴史と祭り』

(岡田莊司・笹生衛編/吉川弘文館刊、平成25年、共著)

『事典 古代の祭祀と年中行事』

(岡田莊司編/吉川弘文館刊、平成31年、共著)



### 悔いのない 大学生活を送ろう

大学生時代は、自由な時間が多く、勉強に限らず、様々なことを学び、経験し、またチャレンジすることができる、一生においても貴重な期間である。ただし一方では、自由であるがゆえに怠惰にもなりやすく、多くの時間をムダに過ごしがちとなる。あるいは羽目はずしすぎて、大きな後悔をする者もいるだろう。自由であることには同時に責任がともなうのであり、自らの言動を律して、有意義で充実した大学生活にできるかは、ひとえに自分の心掛け次第である。大学を卒業する時に、振り返っても悔いが残らないような、自分に誇りをもてる大学生活を送ってほしい。

教授

## 笹生 衛 SASOU Mamoru

令和2年度担当科目 宗教考古学Ⅰ・Ⅱ 神道史学演習Ⅰ・Ⅱ  
神道史学演習テーマ 「考古学から見た古代・中世の神・祖先・祭祀」

出身地

千葉県

専攻領域

日本考古学 日本宗教史

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程前期修了

学位

博士(宗教学)

所属学会

日本考古学協会 祭祀考古学会 神道宗教学会

主な著書・論文

「神と死者の考古学」(単著)(吉川弘文館、平成28年)

「日本古代の祭祀考古学」(単著)(吉川弘文館、平成24年)

「前方後円墳の出現と日本国家の起源」(共著)

(KADOKAWA、平成28年)

「事典 神社の歴史と祭り」(共編)(吉川弘文館、平成25年)

「亀卜」(共著)(臨川書店、平成18年)

「神仏と村景観の考古学」(単著)(弘文堂、平成17年)

「平安時代の神社と祭祀」(共著)(国書刊行会、昭和61年)



元気に楽しく！

昭和36年、千葉県生まれ、代々続く農家で育ちました。國學院大學文学部神道学科から大学院へ。その後、千葉県教育庁に就職。埋蔵文化財の発掘調査と保護行政、青少年教育や県立博物館の学芸員、指定文化財の保護行政も担当し現在に至っています。

私は、古代・中世の宗教・信仰を考古学の視点から分析し、その実態を明らかにしようという研究をおこなっており、遺跡・遺物の考古資料から神仏への信仰を、かつての環境・景観の中で具体的に復元することを目指しています。それは、日本文化を考える上で不可欠な要素であり、新たな日本宗教史、神道史を描くことにもつながると信じています。日本文化や神道の歴史を、新たな視点から一緒に考えていきましょう。

教授

## 菅 浩二 SUGA Koji

令和2年度担当科目 神道と国際交流Ⅰ 英語Ⅴ・英語Ⅵ  
神道文化基礎演習 神道学演習Ⅰ・Ⅱ

神道学演習テーマ 「現代社会の人間観、神道・宗教」

出身地

兵庫県

専攻領域

宗教とナショナリズム論 近代神道史 歴史社会学

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位

博士(宗教学)

所属学会

神道宗教学会 日本宗教学会 「宗教と社会」学会 明治聖徳記念学会 他

主な著書・論文

「日本統治下の海外神社」(弘文堂、平成16年)

「冥王星と宇宙葬」(『共存学3』弘文堂、平成27年)

「ナショナリズムの世俗性をめぐる断想」(『共存学4』弘文堂、平成29年)

*The Ways of Religion: Interreligious Philosophical Dialogues,*  
vol.2. (Routledge/Taylor & Francis 2018) (共著)

「靖国神社と福祉国家」(『国家神道と国体論』弘文堂、令和元年)

「巨大ロボットと宗教」(『巨大ロボットの社会学』法律文化社、令和元年)



神社へのお参りは、  
自分と世界を結ぶ道の  
第一歩

人間と社会の姿が〈宗教〉に結ぶ像を通して、この時代と未来を考えましょう。そのためには歴史や言葉の勉強も、世界を知ることも重要です。何も努力せずには、何も身につけません(↑自分向けにも言っています…)。

わが国の先人たちが、長い時間をかけて神々との関係を形にした「神道」は、現代の私たちにとっても大切な知恵の表われです。身近な神社へのお参りを、自分と世界のあいだを結ぶ道の第一歩を踏み出すこと、とを考えてみて下さい。その道の向こうには、家族、仲間、地域、民族、くに、人類、環境…と、色々な共同性が見えています。

人の生活において、共同の意識を形作るものは何でしょうか。いろんな関心を持って一緒に学びましょう。研究者として、また一人の神道人として、私も学び続けます。

## 教員紹介

I

理念と特色

II

奉職・就職

III

カリキュラムと履修

IV

キャンパスライフ

V

入学案内

教授

### 武田 秀章 TAKEDA Hideaki

令和2年度担当科目 古典講読ⅠA・ⅠB 神道史学演習Ⅰ・Ⅱ  
神道史学ⅡA・ⅡB 神道史(専攻科)

神道史学演習テーマ 「神道古典と国学」

出身地

神奈川県鎌倉市

専攻領域

近世・近代神道史 国学史 神道古典

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位

博士(神道学)

所属学会

神道宗教学会 明治聖徳記念学会

主な著書・論文

『日本型政教関係の誕生』(共著、第一書房、昭和62年)

『維新期天皇祭祀の研究』(大明堂、平成8年)

『靈魂・慰霊・顕彰—死者への記憶装置—』(共著、錦正社、平成22年)

『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』(共著、國學院大學、平成24年)



内なる芽を豊かに  
結実させてゆきましょう

鶴岡八幡宮のお膝元・鎌倉で生まれました。國學院で神道を学んだのち、神社新報社に就職し、ついで神社本庁に転出しました。本学に移ったのは、平成八年のことです。このように、神社・神道づくめの人生なので、ものごころついて以来、「神様とは何か」「祭りとは何か」「神道とは何か」という問いを考え続けてきました。

神道は、「天地初発」(『古事記』)以来、連綿と蓄積されてきた日本人の生命記憶の総体です。神道を学ぶということは、この無限の生命記憶から、生きる力を汲み上げてゆくということにほかなりません。かけがえのない「内なる芽」を、生涯かけて大切に育み、豊かに結実させてゆきましょう。健闘を祈ります。

教授

### 西岡 和彦 NISHIOKA Kazuhiko

令和2年度担当科目 神道概論Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ  
神道学演習Ⅰ・Ⅱ

神道学演習テーマ 「大祓詞」

出身地

兵庫県

専攻領域

神道思想史 神道神学

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位

博士(神道学)

所属学会

神道宗教学会 神道史学会 日本思想史学会 日本宗教学会 藝林會

主な著書・論文

『直毘霊を読む』(右文書院、平成13年、共著)

『近世出雲大社の基礎的研究』(大明堂、平成14年、単著)

『生田神社史』(国書刊行会、平成19年、共著)

『大社町史 中巻・年表』(出雲市、平成20年、共著)

『日本神道史』(吉川弘文館、平成22年、共著)

『出雲大社の寛文造宮について—大社御造宮日記の研究—』

(島根県古代文化センター、平成25年、共著)

『建国の使命—「大祓詞」の神学—』(伊勢神宮崇敬会、平成29年、単著)

『先代旧事本紀論—史書・神道書の成立と受容—』

(花鳥社、令和元年、共著)

(ほか)



新入生のみなさんへ

神道を学ぶ者はきわめて少ない。みなさんは貴重な存在である。だからこそ、自身の生き方を大切にして欲しい。神道学は日本の神さまを調べるだけでなく、神習うことを必要とする。神さまの慈愛を受け止める感性を身につけ、それに感謝し、敬愛を以て各自の大切な使命を遂行するのが、いわゆる神道人である。神道人とはなんと誇らしき響きであろう。だが、その誇りを確認しなければ、単なる空威張りになってしまう。そこで神道を学ぶのだが、自力でその確認が擱めるまでには、どうしても指導が必要である。それに応じるのが、本学部の使命なのである。

教授

## 松本 久史 MATSUMOTO Hisashi

**令和2年度担当科目** 古典講読ⅠA・ⅠB 古典講読ⅢA・ⅢB  
国学概論Ⅰ・Ⅱ 神道学演習Ⅰ・Ⅱ  
神道古典(専攻科)

**神道学演習テーマ** 「カミ(神祇)の霊威・霊験・怪異の近世・近代史」

### 出身地

栃木県宇都宮市

### 専攻領域

国学史 神道史

### 最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

### 学位

博士(神道学)

### 所属学会

神道宗教学会 日本宗教学会 明治聖徳記念学会 他

### 主な著書・論文

「荷田春満の国学と神道史」(弘文堂、平成17年)

新編荷田春満全集編集委員会編「新編荷田春満全集」第1・3・12巻

(校注)(おうふう、平成16・17・22年)

「荷田派の延喜式詞研究」(『朱』第58号、平成27年2月)

「神話のおへそ『古語拾遺』編」(執筆)(扶桑社、平成27年)

「前期国学の古事記研究」(『古事記學』第1号、平成27年3月)



基礎を大事に、  
そして目標をしっかりと！

平成14年に本学の日本文化研究所助手を拝命し、21年度まで日本文化研究所・研究開発推進センターに所属し、22年度からは学部教員。近世の国学を中心とした神道・国学史を研究テーマにしています。神道を学ぶためには、古典をはじめとした幅広い知識が必要になります。特に1、2年生の間には、様々なことに興味を持ち、しっかりと基礎教養を身につけてください。そのためのサポートをしっかりとしたいと思います。その上で、3、4年生の時に、オンリーワンの得意分野を作ってください。世の中がどう変動しようとも、流されず、しっかりと自分の根柢を持てるよう、勉強は勿論のこと、部活やサークル活動、神社奉仕等の社会活動にも励んでほしいと思います。

教授

## 茂木 栄 MOGI Sakae

**令和2年度担当科目** 日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 神道文化演習  
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る

**宗教学演習テーマ** 「江戸・明治期の日本観察記を読む」

### 出身地

さいたま市

### 専攻領域

日本民俗学 民俗芸能学 祭祀研究 社叢学

### 最終学歴

成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期単位取得

### 所属学会

神道宗教学会 日本民俗学会 民俗芸能学会 社叢学会

### 主な著書・論文

「設楽のシカウチ行事調査報告書」(共著)

(東米町教育委員会編、平成30年)

「北海道神社明細帳の分析」(本学日本文化研究所、平成9年)

「まつり伝承論」(大明堂、平成5年)

「大和の伝承文化」上巻・下巻(共著)(名著出版、昭和62年・昭和63年)

「山・社・海をつなぐ神の道」(『共存学文化社会の多様性』國學院大學研究開発推進センター編、弘文堂、平成24年)

ハイヴィジョンDVD作品多数(國學院大學博物館「四季の祭」コーナー25作品〈短編編集〉：常時鑑賞可)



かけがえのない自分史を  
編んでいこう！

私は父の仕事の関係で静岡県の山奥、天龍川中流域の佐久間町で育つ。東京から行った社員だけで集落を形成していて、クラブやプール、テニスコートなどがある山の中の文化生活だった。野山を駆け回って身体だけは強くなる。小学校5年の時に都会(川崎)の学校に転校。転校初日に相撲に無理矢理誘われ、山で鍛えた筋肉のお陰で、クラスで一番強いと称する子を何度も転がして、クラスの子達を驚かせた。その時思ったことは、「山の子達と都会の子達とは、組んだ時の身体の強さが全く違うなあ」ということ。その後また転校し高校時代は赤十字の奉仕活動にうつつを抜かす毎日。大学時代から学生映画を作っていたので、その技術を生かして修論に映画を付けた。今でも映像制作は重要な私の活動分野となっている。学生諸君には肯定的な物語を編む努力をしてもらいたい。

健闘を祈る。

## 教員紹介

教授

### 茂木 貞純 MOTEGI Sadasumi

令和2年度担当科目 神社祭祀演習ⅢB 祭祀学特殊講義  
神社祭式特論 祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(専攻科)

#### 出身地

埼玉県熊谷市

#### 専攻領域

神道祭祀学 戦後神道史

#### 最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

#### 所属学会

神道宗教学会 古事記学会 禮典研究会

#### 所属学会

神道宗教学会

#### 主な著書・論文

『日本の暮しと神社』(神社新報社、平成30年)

『神道祭祀の伝統と祭式』(共編著、戎光祥出版、平成30年)

『遷宮をめぐる歴史—全六十二回の伊勢神宮式年遷宮を語る』  
(共著、明成社、平成24年)

『知識ゼロからの伊勢神宮入門』(幻冬舎、平成24年)

『新神社祭式行事作法教本』(共編著、戎光祥出版、平成23年)

『日本語と神道』(講談社、平成15年)

『神道と祭りの伝統』(神社新報社、平成13年)



心身共に健康で  
見聞を広めよう

昭和26年、埼玉県熊谷市の社家に生まれる。地元の高校を卒業し、國學院大學に学び神職資格を取得した。昭和55年から、神社本庁調査部に勤務、祭礼調査や祭式研修の企画実施の仕事を皮切りに、25年間様々な部署で仕事をさせて頂いた。常に、全国の神社を意識しなければならず、大変よい経験であった。多くの先輩、友人、神職、総代の方々の知遇を得ることができ、感謝の心でいっぱいだ。

平成17年4月から、専任教員の一人として、母校で教鞭を執ることになった。十分な研究実績があるわけではないが、優れた神職を養成できるよう、努力したいと願っている。

基礎体力はしっかりとつけ、たくさんの本を読もう。友達と、よく遊べ。けして、幼稚なことはするな。見聞を広め、世間を知ろう。目標は、なるべく高く。本物から学ぼう。

准教授

## 加瀬 直弥 KASE Naoya

令和2年度担当科目 祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道史学演習Ⅰ・Ⅱ  
神社管理研究Ⅰ・Ⅱ 祭祀学(専攻科)

神道史学演習テーマ 「まつりの「もの・ひと」

### 出身地

神奈川県横浜市

### 専攻領域

古代・中世神道史

### 最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

### 学位

博士(神道学)

### 所属学会

神道宗教学会 神道史学会 国史学会 日本宗教学会

### 主な著書・論文

『古代の神社と神職』(吉川弘文館、平成30年)

『平安時代の神社と神職』(吉川弘文館、平成27年)

『日本神道史』(共著)(吉川弘文館、平成22年)

『丹生都比売神社史』(共著)(同神社、平成21年)

『古代諸国神社神階制の研究』(共著)(岩田書院、平成14年)



### 体得を大事にする

小学生のころから日本の歴史に興味があった。やがて、古い時代を体得したいと思うようになり、各地をめぐるようになった。その際、神社は歴史を特に物語っているように見えた。最初は漠然とした関心だったが、大学在学中に神道の歴史を研究しようと考え、今に至る。幸い、関心がつとめに結び付いたが、その決め手は自身の信念や努力ではなく、心ある方々による有形無形の理解と支援だった。

人に示せる確たる信念を持ち、計画的な将来設計のもとで人生を歩むことは素晴らしいことだと思う。私にはできなかった。人生に無駄はないんだと思いながら体による経験だけで何とかなっている、というのが、今までを振り返った率直な感想である。

准教授

## 小林 宣彦 KOBAYASHI Norihiko

令和2年度担当科目 神道史学ⅠA・ⅠB 古典講読ⅡA・ⅡB  
神社祭祀演習ⅢA 神道文化演習  
神道史学演習Ⅰ・Ⅱ

神道史学演習テーマ 「日本の神・神社・祭祀・儀礼について考える」

### 出身地

栃木県

### 専攻領域

古代神道史 神道古典

### 最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

### 学位

博士(宗教学)

### 所属学会

神道宗教学会 明治聖徳記念学会 古事記学会 神道史学会

### 主な著書・論文

『律令国家の祭祀と災異』(単著)(吉川弘文館、平成31年)

『古代の皇位継承における神璽についての試論』(単著)

(『國學院雑誌』第120巻第11号、令和元年)

『皇位継承における三種の神器』(単著)(『悠久』第157、平成31年)

事典『古代の祭祀と年中行事』(共著)(吉川弘文館、平成31年)

國學院大學貴重書影印叢書 第4巻『日本書紀 古語拾遺 神祇典籍集』

(共著)(朝倉書店、平成28年)



### 苦楽は表裏。 皆さん次第です。

神社の長男として生まれ、大学生の時に神職講習会で正階を取得し、卒業後、神道学専攻科に進学して明階を取得しました。その後、大学院に進学し、本格的に神道について研究しました。大学院修了後は、兼任講師として研究にも携わっていましたが、実家に戻り神職として奉仕することで、神道の理論と実践を兼ね備えることができました。「神道とは何か」・「神社の社会的役割とは何か」・「神職のあるべき姿とは何か」これらの命題を考え続けることが、自身の研究にも大きな影響を与えました。

学生の皆さんには、在学中に学びの楽しさと苦しさを経験してもらいたと思います。その経験が、きっと皆さんの人生の糧になるでしょう。

准教授

## 藤本 頼生 FUJIMOTO Yorio

令和2年度担当科目 (派遣研究のため担当なし)

出身地

岡山県

専攻領域

神道教化論 宗教行政論 神道と福祉 都市社会と神社

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位

博士(神道学)

所属学会

神道宗教学会 日本宗教学会 「宗教と社会」学会 日本都市社会学会  
宗教学法学会 社会事業史学会 岡山地方史研究会 神道史学会  
明治聖徳記念学会

主な著書・論文

『神道と社会事業の近代史』(単著・弘文堂、平成21年)  
『神社と神様がよ〜くわかる本』(単著・秀和システム、平成26年)  
『地域社会をつくる宗教』(編著・明石書店、平成24年)  
『神社・お寺のふしぎ100』(監修・偕成社、平成27年)  
『よくわかる皇室制度』(単著・神社新報社、平成29年)  
『社会貢献する宗教』(共著・世界思想社、平成21年)  
『鳥居大図鑑』(編著・グラフィック社、平成31年)  
『明治維新と天皇・神社』(単著・錦正社、令和2年)



神道のもつ  
多面的な価値を探そう

私は、地域に所在する神社と人々との関係や、社会的な活動に関心を持ちながら、神道の宗教的・社会的な役割は何かという点について研究を進めてきました。なかでも近代以降の神社や神職にかかる制度を中心に、教化活動や神社の管理や運営、政治や行政との関係性についても研究を進めることで、現代における神社神道の姿を明らかにしようと試みています。

グローバル化の波の中で、さまざまな価値観や考え方が混淆する現代の日本社会にあって、今後ますます、様々な多様性を包含する聖なる箱のような存在である神道の理念やあり方が注目されるものと思われまます。

全国津々浦々で行われている神祭りの姿や、それを形作る組織とネットワークの奥底にある人々の信仰のありようを窺いながら、神社・神道のもつ多面的な価値を一緒に探しましょう。

准教授

## 星野 光樹 HOSHINO Mitsushige

令和2年度担当科目 神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ  
神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢB

出身地

茨城県水戸市

専攻領域

神道祭祀・祭式 国学

最終学歴

國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位

博士(神道学)

所属学会

神道宗教学会 明治聖徳記念学会

主な著書・論文

『近代祭式と六人部是香』(弘文堂、平成24年)  
『神道祭祀の伝統と祭式』(共著)(戒光祥出版、平成30年)  
『国家神道再考』(共著)(弘文堂、平成18年)



神職としての矜持が持てる  
未来をめざして

昭和51年、茨城県水戸市に生まれる。自分の好きな歴史、それも、より精神的な分野について学びたいと思い、國學院大學文学部神道学科に進学。大学院に進んでからは、神道の根幹ともいべき祭祀を学ぶことの重要性を諸先生からご教示いただき、研究テーマを祭祀の実践規範である祭式に定めた。これまでに蒙ることができた御神恩と学恩とに報いるため、祭式の理論面での研鑽と次世代を担う神職の養成に力を尽くしてゆきたいと考えている。

神職を目指す学生は、祭祀の伝統を学び、その重みを伝えていくために、それ相応の気概と努力が必要となる。神職としての矜持が持てるよう、仲間と切磋琢磨して大いに励んでもらいたい。健闘を祈る。

助教

## 大道 晴香 OMICHI Haruka

**令和2年度担当科目** 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ 宗教社会学Ⅰ・Ⅱ  
現代日本と「宗教」 神道と文化  
神道文化基礎演習 神道文化演習  
**神道史学演習テーマ** 「宗教とメディア」

### 出身地

青森県八戸市

### 専攻領域

宗教学 宗教民俗学 メディア論 観光学

### 最終学歴

國學院大學大学院文学研究科博士課程後期神道学・宗教学専攻修了

### 学位

博士(宗教学)

### 所属学会

日本宗教学会 日本民俗学会 日本山岳修験学会 神道宗教学会  
印度学宗教学会 日本出版学会

### 主な著書・論文

「死者の「声」を「聞く」ということ—聴覚メディアとしての口寄せ巫女」  
(山中由里子・山田仁史編『この世のキーワード 〈自然〉の内と外』勉誠  
出版、2019年)

「『イタコ』の誕生—マスメディアと宗教文化」(弘文堂、2017年)

「怪異を歩く」(今井秀和・大道晴香編、一柳廣孝監修、青弓社、2016年)

「〈文化〉再創造のユートピア—甲田学人『Missing』における〈知識〉  
の摂取と再生産を例に」(一柳廣孝・久米依子編『ライトノベル・スタ  
ディーズ』青弓社、2013年)



あなたの周りにある、  
まだ見ぬ世界を見つけよう

私は近現代の社会の有り方と宗教現象との関わり、特にメディアと宗教との関係に関心を抱いています。これまで新聞、大衆雑誌、マンガ、小説、映画、ライトノベルなどを対象に、宗教的なものがいかに描かれてきたのか、そして、メディアの中のイメージが、現実社会にいかなる影響を与えるのかについて考えてきました。

こんなに身近な対象が、宗教を知るうえで役立つ？と疑問に思った方もいるかもしれません。しかし、日頃意識しない、何気無い日常生活の一部だからこそ、そこには生き生きとした文化の姿が見てとれるのではないのでしょうか。大学での学びを通じて、身近にありながらもまだ見えていない、新たな世界を発見してほしいと思います。

助教

## 柏木 亨介 KASHIWAGI Kyosuke

**令和2年度担当科目** 神道文化基礎演習 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ  
神道と文化 神社神道概説(別科)  
比較文化学Ⅰ・Ⅱ 日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ  
**神道史学演習テーマ** 「地域社会の習俗慣行からみる日本の神々と神社」

### 出身地

東京都八王子市

### 専攻領域

民俗学 文化人類学

### 最終学歴

筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修了

### 学位

博士(文学)

### 所属学会

日本民俗学会 日本文化人類学会 現代民俗学会 歴史人類学会  
相模民俗学会 長野県民俗の会 群馬歴史民俗研究会

### 主な著書・論文

「国立ハンセン病療養所の神社創建—国家権力下のムラの神—」  
(藤田大誠編『国家神道と国体論』弘文堂、令和元年)

「現代民俗学における三つの歴史概念—普遍性・遡及・変遷—」  
(古家信平編『現代民俗学のフィールド』吉川弘文館、平成30年)

「身分意識の高揚と民俗社会—西南戦争下の阿蘇谷の打ち毀し—」  
(浪川健治・古家信平編『別冊 環 23 江戸—明治 連続する歴史』藤  
原書店、平成30年)

「現代台湾社会における民俗の発露—2010年台南市市議会議員選挙の  
民俗調査から—」(『比較民俗研究』第31号、平成29年)

「山野路傍の神々の行方—阿蘇郡調洩社堂最寄社堂合併調—覧解題—」  
(藤田大誠ほか編『明治神宮以前・以後』鹿島出版会、平成27年)



驚きと発見を求めよう！

私の生まれは東京郊外。お盆になると同級生がイナカというところに行ってしまう現象を不思議に思っていたところ、たまたま読んだ玉勝間巻八「ゐなかに古へのわざののこれる事」に感化され民俗学を志し、大学生活を熊本で過ごしました。それから筑波山の麓で学位を得て、加藤清正公ゆかりの蔚山に渡韓、帰国後は上州草津の湯で心身を癒しながら研究生活を送りました。各地に遊学することおよそ四半世紀、人々の暮らしぶりを見つめながら社会規範と儀礼との関係を研究してきましたが、いずれの土地にも歴史があり個性的な文化と出会えます。驚きと発見は学問の醍醐味。この時代、この世の中を、みなさんの目で徹底的に見つめましょう。そして、書物を通して先人と語り合い、そこから驚きと発見と希望が得られることを期待しております。

助教

## シッケタンツ エリック Erik SCHICKETANZ

**令和2年度担当科目** 世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ  
英語Ⅴ・Ⅵ 神道と文化 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ  
**宗教学演習テーマ** 「宗教と近代化」

**出身地** ドイツアーヘン市 **専攻領域** 宗教学、近代日本宗教史、近代中国宗教史

**最終学歴** 東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専攻博士課程修了

**学位** 博士(宗教学)

**所属学会** 日本宗教学会 日本近代仏教史研究会 American Academy of Religion, Association of Asian Studies, International Association of Buddhist Studies

**主な著書・論文**  
『墮落と復興の近代中国仏教：日本仏教との邂逅とその歴史像の構築』（京都：法蔵館、2016）  
“Narratives of Buddhist Decline and the Concept of the Buddhist Sect (zong) in Modern Chinese Buddhist Thought,” in *Studies in Chinese Religion* 3:3, pp. 281-300, 2017  
『近代中国仏教における宗派概念とそのポリティクス』（末木文美士・林淳・吉永伸一・大谷栄一（編）『ブッダの変貌—交錯する近代仏教』、87-108頁（京都：法蔵館、2014年）  
“Wang Hongyuan and the Import of Japanese Esoteric Buddhism to China during the Republican Period,” in Tansen Sen (ed.) *Networks of Material, Intellectual and Cultural Exchange* vol. 1, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2014, pp. 403-427.  
『現代中国における清明節の復活—共産党政権の文化政策における祖先崇拜の位置づけについての考察』（『死生学研究』13号、183-216頁、2013年）



学生のみなさんへ

私はドイツ西部にあるアーヘンという町で育ちました。アーヘンはオランダとベルギーとの国境沿いにあり、行こうと思えばすぐでも異なる言語や文化を味わうことができる距離でした。大学生の時は、日本語と中国語を勉強し、アジアの諸文化に幅広い関心を持って受講した多くの授業の中で、とくに宗教に関する科目に興味を持ちました。ロンドン大学を経て東京大学の宗教学研究室に入学したのも、アジアにおける宗教と政治の関係を勉強したかったからです。近代における政治と宗教の領域は複雑な形で絡み合い、国境を越えた問題も抱えています。私は、近代の日中関係に興味がありますし、日中の宗教交流が他領域に与えた影響を現在の研究テーマにしています。でも、大学は学問だけではなく、たくさんの方の経験する機会でもあります。学生のみなさんにはいろいろな方向に視野を広げて、社会のしくみをよりよく理解する機会にしてほしいと思っています。

助教

## 鈴木 聡子 SUZUKI Satoko

**令和2年度担当科目** 神社祭祀概論Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習ⅢA  
神社祭祀演習Ⅰ 神道史学演習Ⅰ・Ⅱ  
神社祭祀同行事作法Ⅰ（別科）

**神道史学演習テーマ** 「神社の祭り（祭祀）を通して本質を探る」

**出身地** 千葉県市川市 **専攻領域** 古代・中世神道史、祭祀学

**最終学歴** 國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程修了

**学位** 博士(神道学)

**所属学会** 神道宗教学会 日本宗教学会 「宗教と社会」学会

**主な著書・論文**  
『国家節会から神社年中行事へ—五月五日行事を事例として—』（『神道宗教』第246号、平成29年）  
『神社年中行事研究の現状とその意義について』（『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第10号、平成29年）  
『房総の伊勢信仰』（共著・雄山閣、平成25年）  
『神社年中行事の成立過程と宮中行事に関する一考察—相撲行事を事例として—』（『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』、國學院大學伝統文化リサーチセンター、平成24年）  
『宇佐宮神社年中行事の成立過程に関する一考察—節日行事と大宰権帥との関わりに焦点をあてて—』（『國學院大學伝統文化リサーチセンター紀要』第2号、平成22年）



学友とともに充実した  
学生生活を過ごそう

千葉県市川市で代々神職を務めてきた家に、次女として生まれました。幼い頃から神社の杜が遊び場で、身近な存在だったこともあり、自然とより深く神道を学びたいと思うようになりました。そして、國學院大學の文学部神道学科、さらに大学院へと進学しました。

4年間の学部での生活で、特に印象深い思い出は、同じ志を持つ仲間と全国の神社を参拝し、その歴史や文化に触れることで生じた興味や疑問などを、共に調べ、語り合ったことです。また、調べていく過程で先生とも密に話し合い、助言をもらいながら学びを深めていきました。

このような、何物にも代え難い貴重な経験こそが、私の研究の出発点となりました。

皆さんも素晴らしい環境の整った本学で、学友と互いに切磋琢磨して様々な事を学んで下さい。

# 神道文化学部の行事

神道文化学部が主催する大学行事を紹介します。

## 観月祭

供物を献じて十五夜の満月を鑑賞する「中秋観月」に由来する行事で、神道文化学部生が中心となって例年10月に行われています。

観月祭では、秋の作物が供えられ、雅楽や舞などが奉納されます。



## 成人加冠式

奈良・平安時代の貴族社会の成人儀礼に由来し、例年1月に行われています。色鮮やかな装束に身を包むこの行事は、神道文化学部のみならず、他学部の学生やそのご家族の関心も集めています。

成人加冠式では、祭式教室にて加冠之儀(男子は加冠・女子は釵子さいしを着装)を執り行った後、神殿に参拝します。



# 奨学金制度

國學院大学の奨学金制度には、経済的な理由により修学が困難な学生や、成績が優秀な学生を対象とする奨学金のほかに、神道文化学部生を主な対象とした神職子女奨学金やフレックス特別給付奨学金などがあります。

## 神職子女奨学金

**対 象** 神道宗教特別選考で入学した新入生

**支給額** [1年次生] 自宅外通学者 400,000円 / 自宅通学者 200,000円

[2年次生] 自宅外・自宅通学者ともに年額100,000円支給(学長成績の上位20名以内)

## フレックス特別奨学金

**対 象** 夜間の時間帯(月～金曜日の5～7時限および土曜日)の科目のみで授業を履修するフレックスAコースの在學生(年度ごとに申請が必要)

**支給額** 400,000円

## 神社界からの奨学金

卒業後神職になろうとする学生、または神道に関する研究に従事しようとする学生への支援のため、神社界から支給される奨学金です。

### 神社本庁育英奨学金

**対 象** 学部2年生以上、または神道学専攻科在學生で、卒業後に神社本庁包括化の神社で神職を志す者、または神道に関する研究に従事しようとする者。

**支給額** 30,000円

### 伏見稻荷大社奨学金

**対 象** 神道文化学科、神道学専攻科、別科神道専修に在學し、卒業後神職又は神社並びに稻荷信仰の普及に関する業務に従事する者。

**支給額** 240,000円(月額20,000円)

### 全国敬神婦人連合会育英奨学金

**対 象** 神職の子女、若しくは「全国敬神婦人連合会」の会員の子女で、卒業後神職を志す者、または神道に関する研究に従事しようとする学部2年生以上の者。

**支給額** 150,000円



出願方法・選考基準などの詳細については、大学ウェブページをご覧ください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship>



# 学部神社実習生制度

神道文化学部には、夜間の時間帯で授業を履修する学生(主に男子学生)を対象に、東京都内の神社に起居し、昼間は神社での奉仕を通じて神職になるために必要な実務を積み、精神を養う学部神社実習生制度があります。

実習生は、住居費および食費が不要となるほか、実習神社から別科授業料相当額が支給されます。

毎年、多くの学生が応募し、実習生として採用されています。

## 実習神社 (令和元年度)

- 浅草神社
- 大宮八幡宮
- 亀戸天神社
- 金王八幡宮
- 浅間神社
- 東郷神社
- 旗岡八幡神社
- 明治神宮
- 六郷神社
- 穴八幡宮
- 小野照崎神社
- 神田神社
- 松陰神社
- 千住神社
- 富岡八幡宮
- 花園神社
- 靖國神社
- 穴守稻荷神社
- 春日神社
- 小岩神社
- 白髭神社
- 鐵砲洲稻荷神社
- 沼袋氷川神社
- 日枝神社
- 雪ヶ谷八幡神社
- 大國魂神社
- 亀戸香取神社
- 子安神社
- 世田谷八幡宮
- 東京大神宮
- 根津神社
- 御田八幡神社
- 代々木八幡宮

## 神社実習生の メッセージ



坪山 奈央さん

フレックスA  
4年生

私は北海道の出身で父が神社で奉務しております。

神職を目指そうと決めたのは、三姉妹の長女ということもありますが、進路を決める高校生の頃、氏子さんからいただいた「お姉ちゃんが神主をやってくれるんでしょう」というお声がけが、私の背中を押してくれました。

「地元の方々のご期待にこたえよう…お宮のご奉仕を受け継ごう」。そう決意して、神道文化学部のフレックスA(夜間主)コースに入学しました。学費を補うためもあって、2年次まで都内の神社で神社実習生としてご奉仕をさせていただきました。ご社頭でのご奉仕によって大勢の崇敬者・参拝者の方々と触れあうことができ、大学で学んだことを還元できたり、自身の

体験をもって学びを深めたりすることもできました。私は主に巫女さんのお仕事を奉仕させていただきましたが、お守り・お札の授与のほか祭典の神楽舞や御祈祷の奉仕をしました。日々の奉仕の中で先輩の神職さんたちからお話をきいたり、ご指導いただくこともあり貴重な体験ができました。卒業後、奉職を考えている学生にとっては具体的なイメージを持ちやすいのではないかと感じました。

また、大学のキャンパス内だけでなく、多くの人とのつながりを作ることができるので自分を高めるうえで良い刺激になりますし、高校卒業後に上京してきた私にとっては自分のことを知ってくれている人がいるということが精神的に大きな支えにもなり、実習終了後の今も交流があります。実習と学業の両立は大変だと感じることも少なくありませんでしたが、近くでたくさんの方が支えてくださいましたし、実際に社頭に立つことで気づけることや学べるものがたくさんあり、得難い経験ができたと思っています。

これからも感謝の思いを忘れず、大学での学びと神社実習での経験を糧に、神社でのご奉仕に努めて参りたいと願っております。

## Ⅱ 奉職・就職

### 神社関係の奉職について

全国には80,000を超える神社があります。毎年、北海道から沖縄にいたるまで、180社以上の全国著名神社から求人申込みがあります。特に本学出身の方が奉仕している神社からは、ぜひ後輩を受け入れたいとの強い要望が寄せられます。

奉職をはじめ神社に関わる職員は「労働者」ではなく、神々への「奉仕者」であるため、誠実な神社奉仕に努めて生活することが求められます。確固たる信仰心、奉仕の精神を持って、神社界に進まれることをお勧めします。

#### 神社関係 奉職行事予定

3年次	11月下旬～12月下旬	奉職説明会
	1月下旬～3月	奉職個人面談(奉職希望調査票提出)
	3月	求人票閲覧開始
4年次	4月～2月	推薦

#### 令和元年度卒業生 主な奉職神社一覧

大崎八幡宮(宮城)	鹿島神宮(茨城県)	秩父神社(埼玉県)	神田神社(東京都)
靖國神社(東京都)	鶴岡八幡宮(神奈川県)	寒川神社(神奈川県)	彌彦神社(新潟県)
氣比神宮(福井県)	三島大社(静岡県)	賀茂御祖神社(京都府)	伏見稻荷大社(京都府)
住吉大社(大阪府)	龜山八幡宮(山口県)	筥崎宮(福岡県)	[神社本庁(東京都)]

### 神道研修事務課からのお知らせ

#### 神道研修事務課について

國學院大學は、母体であった皇典講究所の創立以来、神職養成に一貫して努めてきており、数多くの神職を輩出しています。神道研修事務課は、神職養成に関する実務を行う中核となる部署であり、次のような業務を担当しています。

1. 神社実習に関すること
2. 神職資格の申請に関すること
3. 神社関係への奉職(就職)、助勤(アルバイト)に関すること

#### 神職資格について

神社本庁所属神社の神職となるためには、神社本庁が授与する階位(資格)が必要です。

##### ①階位の種類

階位には、上位より淨階、明階、正階、權正階、直階があります。

##### ②神職任用上の階位の区分

神職に任用される際には、次の階位を取得しておく必要があります。

別表神社(神社本庁より特に指定された神社)		別表神社以外の神社	
宮司・權宮司	明階以上を有する者	宮司・宮司代務者	權正階以上を有する者
宮司代務者・禰宜	正階以上を有する者	禰宜・權禰宜	直階以上を有する者
權禰宜	權正階以上を有する者		

##### ③取得階位

國學院大學在学中に神職課程の所定の単位を修得し、神社実習を修了することによって、「正階(明階検定合格)」を取得することができます。さらに所定の要件を満たし、明階総合課程(⇒p.27)の受講を許可され、所定の単位を取得ならびに神社実習を修了し、神社本庁の審査に合格した者は、「明階(明階検定合格)」を取得できます。

## 神社実習について

神職の階位を取得しようとする場合、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」の定めに従い、まず階位検定委員会の「検定(学識認定)」に合格したのち、所定の「神務実習」を修了しなければなりません。

しかし、國學院大學においては、卒業に要する単位と神職課程の単位を修得し、かつ本学所定の神社実習を修了することによって、卒業と同時に階位を取得することができます。神職の階位取得に必要な本学所定の神社実習は表のとおりです。実習参加手続等、詳細については4月(2年生以上)または6月(1年生)に開催する説明会でお知らせします。

※神宮実習ならびに中央実習は、明階総合課程(⇒p.27)の履修者のみ該当します。

### 【神道文化学部・他学部(神職課程)】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
基礎実習	大学	2日間以上*	2年生以上は4月に開催。 1年生は6月と11月に分けて開催。参加費不要
指定実習Ⅰ	大学及び明治神宮 (東京都)	8日間以上* (内、明治神宮3泊4日)	夏季休暇中。 参加費26,000円(令和元年度)
指定実習Ⅱ	大学及び大学が指定した神社 (全国31社)	10日間以上* (内、実習神社6泊7日)	夏季休暇中。 参加費26,000円(令和元年度)
指定実習Ⅲ	大学及び大学が承認した神社	12日間以上	随時。参加費不要

※事前学習、事前研修会、書類作成日数等を含む。

### 【神道文化学部(明階総合課程)】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
神宮実習 <sup>※1</sup>	神宮(三重県)	5泊6日 <sup>※2</sup>	夏季休暇中(4年次)
中央実習 <sup>※1</sup>	神社本庁(東京都)	2泊3日 <sup>※2</sup>	神宮実習を修了した者。2月下旬から3月中旬(4年次)。 参加費30,000円(令和元年度)

※1 明階総合課程を履修していない学生は、神社本庁が示す実習受講の推薦基準を満たし大学が推薦することで参加できる。

※2 この日程のほかに事前研修会あり。

## 神社関係への助勤(アルバイト)について

神社からの助勤には、下記のようなものがあり、その都度、神道研修事務課掲示板で募集します。神職資格取得希望者以外の学生にも紹介しています。

なお、神社奉仕に不相応な服装、態度の者は、紹介をお断りしています。

1. 祭典等の祭儀補助員(神職資格取得希望者に限る)
2. 繁忙時(年末年始等)の社頭奉仕
3. 神輿渡御などの行列諸役奉仕
4. 神社関係施設での奉仕(授与所等)

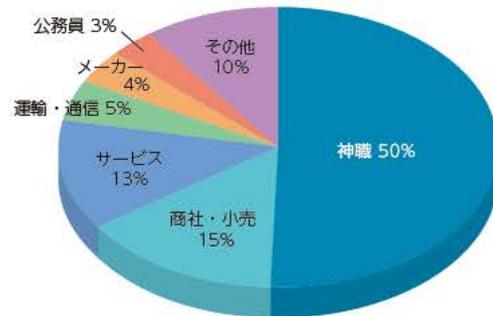
近年、神社界より卒業後すぐに現場で活躍できる人材の要望が高まっているため、所定の神社実習さえ修了すればよいという考え方ではなく、行学一致を心掛けるべく、在学中は積極的に神社関係の助勤に参加して実践的な経験を多く積まれることを強く望みます。

# 就職について

## 卒業後の進路

神道文化学部では、就職のためのガイダンス・個別面談・セミナーを軸としたサポート体制を整えており、学年やライフスタイルにあわせた、学部独自のきめ細かな就職サポートもしています。

毎年、神社界にとどまらず、一般企業や官庁をはじめ、ひろく社会で活躍する人材も数多く輩出しています。



卒業生の進路状況(第127期生 平成31年3月卒)

## 資格課程

神職以外の資格で、大学の課程で取得できる資格には、次のようなものがあります。

### ■ 教職課程

中学校教諭一種免許(社会)／副免許(国語・英語・保健体育)

高等学校教諭一種免許(公民)／副免許(国語・書道・英語・地理歴史・保健体育)

### ■ その他の資格課程

博物館学芸員 図書館司書 学校図書館司書教諭

資格取得には  
綿密な履修計画と、  
高い修学意欲・実行力が  
必要です。

# 各種講座について

神道文化学部では、國學院大學出身の神職によって構成される「國學院大學院友神職会」の支援を受け、奉職・就職と「その先」を見据えた、社会人を高めるための各種講座を開催しています。

これらの講座で、神社での実務的な社務のみならず、一般企業への就職にも活かせるスキルや教養を身に付けることができます。神道文化学部の学生は、無料で受講できます。

### 書道講座

書道を専門とする本学教員から、墨のすり方・筆の使い方、楷書・行書を学び、基礎を固めます。受講者の書の添削を行います。

### マナー講座

身なりをはじめ、挨拶やお辞儀の角度などの初歩的なマナーから、電話の取り方、食事のマナーなど、社会人として必要なビジネスマナー・行儀作法の講義と演習を行います。

### 衣紋講座

重要な神社祭祀で用いる、単や袍の着装を受講者自らが実践します。指導は、衣紋襷(ひだ)の取り方や装束の畳み方など、詳細に及びます。

### 和歌講座

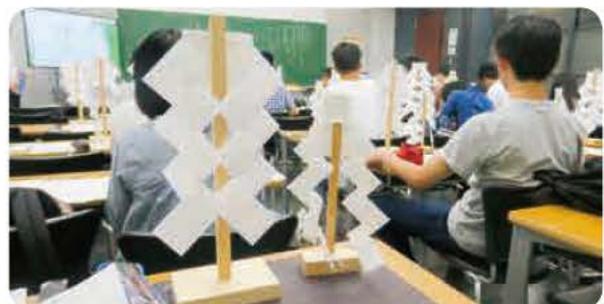
和歌を詠むための初歩的な心構えや知識を習得することをはじめ、名歌の鑑賞・解説や、受講生が詠んだ和歌への指導を行う講座です。

### 御幣講座

神道を象徴する祭具である御幣の由来や役割について学ぶとともに、実際に作製することで、神職になる上で必要な基本的知識や技能を修得します。



マナー講座



御幣講座

# Ⅲ カリキュラムと履修

## 履修について

### 卒業に必要な単位

神道文化学部では、90分の授業を前期・後期のいずれか半期履修し、合格の評価を受けると2単位、通年の場合は4単位修得できます。

いずれのフレックスコース、または学科内コースに属していても、卒業するためには124単位修得することが必要です(神職など各種資格を取得するためには、124単位以上必要です)。

神道文化学部の授業は3つに区別され、うち2つは卒業に必要な単位がそれぞれ定められており、必修・選択必修の科目が設けられています。

### 124単位以上取得で卒業

共通教育プログラムの科目  
(本ページ)  
**36単位以上**

全学オープン科目  
(本ページ)

専門教育科目  
(⇒p.24・25)  
**64単位以上**

### 共通教育プログラム

自らの関心のあることだけでなく、大学を卒業した社会人としてふさわしい教養を身に付けるため、國學院大學では「共通教育プログラム」を設け、外国語をはじめ、理系の諸学問やスポーツなど、様々な分野の科目を配置しています。神道文化学部の学生は、共通教育プログラムの科目を履修し、36単位以上取得しなければ卒業できません。

履修区分	履修方法	
必修(12単位)	1年次開講	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」
	2年次開講	「英語Ⅴ」「英語Ⅵ」
選択必修(8単位)	「数的推論」「コンピュータと情報」のうち1科目	
	専門教養科目群を構成する6つのパッケージ(『人文学』『法学・政治学A』『法学・政治学B』『経済学A』『経済学B』『自然科学』)から3科目 ※フレックスAコースの学生は、すべてのパッケージのなかから3科目を履修(パッケージの制限はない) ※フレックスBコースの学生は、1つのパッケージを選択し、そのなかから3科目を履修	
選択(16単位以上)	上記以外の科目	

※神道文化学部の学生は「神道と文化」を履修できません。また、履修に条件のある科目があります。

### 全学オープン科目(副専攻プログラム・PCAP)

全学オープン科目とは他学部で開放している専門教育科目のことで、修得した単位は卒業単位に含めることができます。

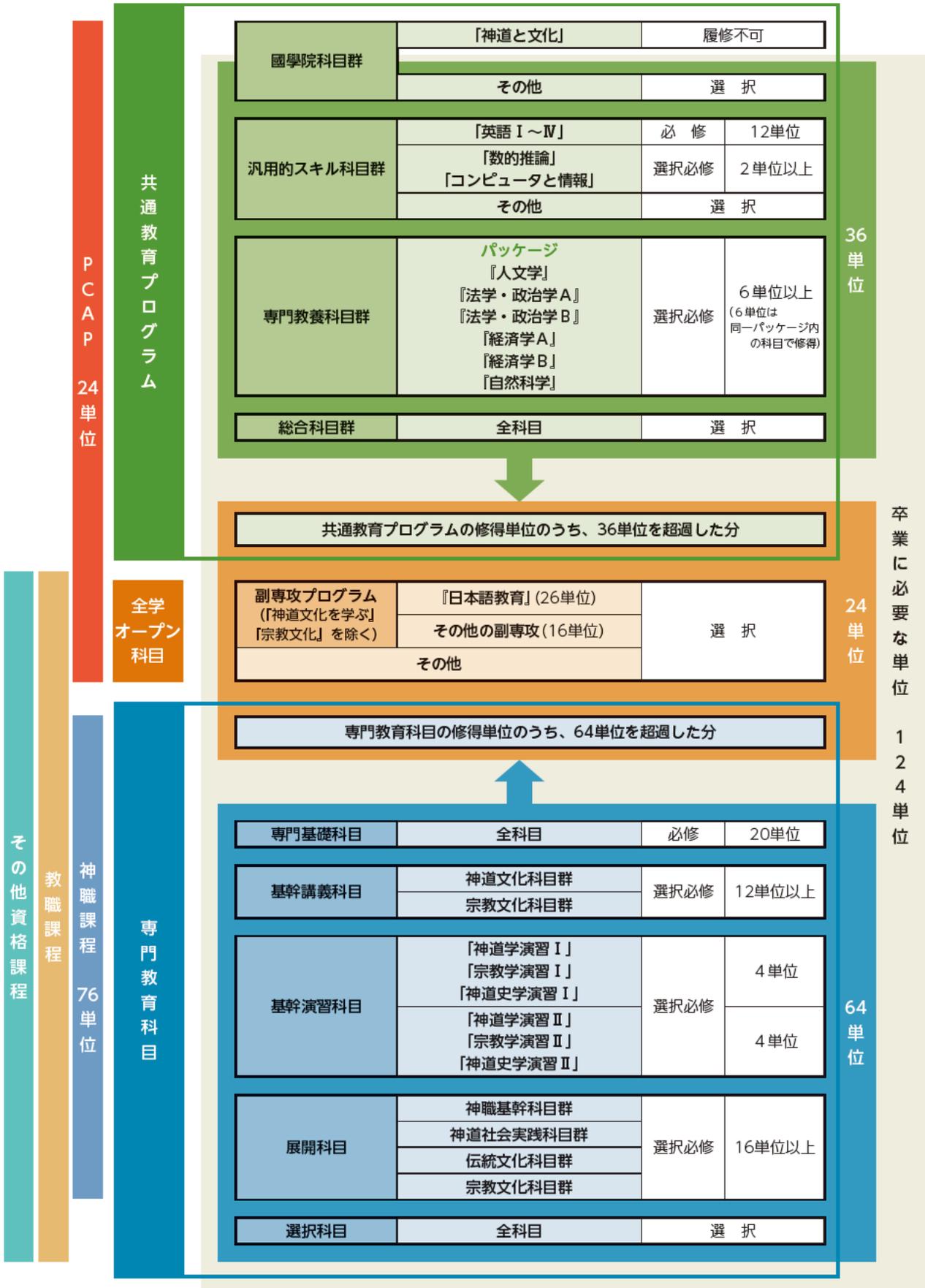
#### 副専攻プログラム

他学部の専門分野を体系的に学ぶために全学オープン科目を履修するプログラムです。修了者には「副専攻修了証」が授与されます(神道文化学部の学生は「神道文化を学ぶ」・「宗教文化」は選べません)。

#### PCAP (全学共通実践的キャリア 開発プログラム)

卒業後の進路目標を明示したプログラムです。共通教育プログラムや全学オープン科目などから24単位を履修します(神道文化学部の学生はグローバルビジネスの即戦力を育成する「グローバルキャリア・コース」を履修することができます)。

# 神道文化学科のカリキュラム



# 専門教育科目

神道文化学部では、学位授与方針(ディプロマポリシー⇒P.2)に基づき、「知識・技能」(A1～A3)、「思考力・判断力・表現力」(B1～B3)、「主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度」(C1～C3)の9つの学習・教育目標に応じた専門教育科目を必修・選択必修となる科目に定めています。

## カリキュラムポリシー

神道文化学部(神道文化学科)は、学位授与方針が示す教育目標を達成するため、図に示すような教育課程を編成します。

科目群		卒業認定・学位授与方針(DP)									各科目群の教育目標
		知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
専門基礎科目		◎	◎	○	○	○		○			神道を中心とする日本文化やその広がりである宗教文化の基礎を学ぶことで、関連する事柄への基本的知識や、史資料に基づく思考力などを身につける。
基幹講義科目	神道文化科目群	◎		○	◎			○			神道に関する研究の基本となる祭祀・古典・歴史・思想・進学・国学に関する知識や、関連する史資料に基づく思考力、神道文化を主体的に発信する態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎		○	◎			○		世界と日本の宗教文化、宗教に関する考古学や社会学を学ぶことで、宗教文化に関する知識や、現代社会の諸事象を考察する能力を得る。
基幹演習科目		○	○		○		◎			○	主体的な関心に基づく神道文化・宗教文化に関する発表やレポート・論文作成を通じ、社会でも通用するコミュニケーション力や表現力を高める。
展開科目	神職基幹科目群	○		◎	○	○		○			神道に関する専門的な事柄を学び、神社神職として必要となる基本的な知識・技能などを身につける。
	神職社会実践科目群	○		◎		○	◎	○	○		神道をめぐる現代的課題に関する専門的知識や、多角的な視点から考える態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎			○			○		国内外の宗教文化に関する専門的な知識を深く理解し、一定の説明能力を身につける。
	伝統文化科目群	○	◎				◎	○	○		神道を中心とする日本文化に関する知識を得るとともに、実技を通じて日本文化を理解する力などを獲得する。
選択科目		○		◎		○		○	○		神道文化、宗教文化を専門的ないし多角的に学ぶことで、これらの文化を広く社会に生かすための知識・技能などを身につける。

## 専門教育科目一覧

神道文化学部の卒業には、専門教育科目を64単位以上修得することが条件のひとつとなります。

	授業科目	開講	単位	開講学年				卒業に必要な単位	神職階位取得に必要な科目			年次別履修単位制限の枠外	
				1	2	3	4		必修	列ごとに下記単位数分取得			
										① 4単位	② 4単位		③ 16単位
専門基礎科目	神道概論Ⅰ	半期	2	○				★					
	神道概論Ⅱ	半期	2	○				★					
	神道史学ⅠA	半期	2	○				★					
	神道史学ⅠB	半期	2	○				★					
	古典講読ⅠA	半期	2	○				★					
	古典講読ⅠB	半期	2	○				★					
	宗教学Ⅰ	半期	2	○							☆		
	宗教学Ⅱ	半期	2	○							☆		
	神道文化基礎演習	半期	2	○									
	神道文化演習	半期	2		○								
基幹講義科目	神道文化科目群	祭祀学Ⅰ	半期	2			○	★					
		祭祀学Ⅱ	半期	2			○	★					
		神道神学Ⅰ	半期	2			○		☆				
		神道神学Ⅱ	半期	2			○		☆				
		神道史学ⅡA	半期	2		○		★					
		神道史学ⅡB	半期	2		○		★					
		神道思想史学Ⅰ	半期	2		○			☆				
		神道思想史学Ⅱ	半期	2		○			☆				
		古典講読ⅡA	半期	2		○		★					
		古典講読ⅡB	半期	2		○		★					
		国学概論Ⅰ	半期	2		○					☆		
		国学概論Ⅱ	半期	2		○					☆		
	宗教文化科目群	世界宗教文化論Ⅰ	半期	2	○						☆		
		世界宗教文化論Ⅱ	半期	2	○						☆		
		日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○						☆		
		日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○						☆		
		宗教考古学Ⅰ	半期	2		○					☆		
		宗教考古学Ⅱ	半期	2		○					☆		
宗教文化科目群	宗教社会学Ⅰ	半期	2		○					☆			
	宗教社会学Ⅱ	半期	2		○					☆			
	比較文化学Ⅰ	半期	2		○					☆			
	比較文化学Ⅱ	半期	2		○					☆			
	基幹演習科目	神道学演習Ⅰ	通年	4			○						
		宗教学演習Ⅰ	通年	4			○						
神道史学演習Ⅰ		通年	4			○							
神道学演習Ⅱ		通年	4				○						
宗教学演習Ⅱ		通年	4				○						
神道史学演習Ⅱ		通年	4				○						

※○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※神職階位取得に必要な科目のうち、★は必修、☆は選択必修を示す。

※年次別履修単位制限(CAP制)に基づき、1年間に登録できる履修単位数が年次別に制限されているが、△はCAP制の対象から除外される科目をあらわす。

※この他、選択科目がある。

開講科目	開講	単位	開講学年				卒業に必要な単位	神職階位取得に必要な科目			年次別履修単位制限の枠外	
			1	2	3	4		必修	列ごとに下記単位数分取得			
									① 4単位	② 4単位		③ 16単位
神職基幹科目群	古典講読ⅢA	半期	2			○		★				
	古典講読ⅢB	半期	2			○		★				
	祝詞作文Ⅰ	半期	2				○	★				
	祝詞作文Ⅱ	半期	2				○	★				
	神社祭祀演習Ⅰ	通年	2		○			★				△
	神社祭祀演習Ⅱ	通年	2			○		★				△
	神社祭祀演習ⅢA	半期	2				○	★				△
	神社祭祀演習ⅢB	半期	2				○	★				△
	神社祭祀概論Ⅰ	半期	2	○				★				
	神社祭祀概論Ⅱ	半期	2	○				★				
	神社管理研究Ⅰ	半期	2			○				☆		
神社管理研究Ⅱ	半期	2			○				☆			
神道社会実践科目群	神社ネットワーク論Ⅰ	半期	2		○						☆	
	神社ネットワーク論Ⅱ	半期	2		○						☆	
	神道教化概論Ⅰ	半期	2			○		★				
	神道教化概論Ⅱ	半期	2			○		★				
	宗教行政研究Ⅰ	半期	2			○		★				
	宗教行政研究Ⅱ	半期	2			○		★				
	神道と国際交流Ⅰ	半期	2			○					☆	
	神道と国際交流Ⅱ	半期	2			○					☆	
	神道と環境Ⅰ	半期	2			○					☆	
	神道と環境Ⅱ	半期	2			○					☆	
	神道と情報化社会Ⅰ	半期	2				○			☆		
	神道と情報化社会Ⅱ	半期	2				○			☆		
宗教文化科目群	教派神道研究Ⅰ	半期	2			○					☆	
	教派神道研究Ⅱ	半期	2			○					☆	
	キリスト教文化研究Ⅰ	半期	2		○						☆	
	キリスト教文化研究Ⅱ	半期	2		○						☆	
	仏教文化研究Ⅰ	半期	2		○						☆	
	仏教文化研究Ⅱ	半期	2		○						☆	
	中東文化研究Ⅰ	半期	2			○					☆	
	中東文化研究Ⅱ	半期	2			○					☆	
	東アジア文化研究Ⅰ	半期	2			○					☆	
	東アジア文化研究Ⅱ	半期	2			○					☆	
伝統文化科目群	宗教芸術研究Ⅰ	半期	2			○					☆	
	宗教芸術研究Ⅱ	半期	2			○					☆	
	宗教音楽研究Ⅰ	半期	2			○				☆		
	宗教音楽研究Ⅱ	半期	2			○				☆		
	神道と武道Ⅰ	半期	2		○						☆	
	神道と武道Ⅱ	半期	2		○						☆	
	神道と書道Ⅰ	半期	2			○				☆		
	神道と書道Ⅱ	半期	2			○				☆		

# 専門教育科目の履修について

( )の数字は単位数

	神職資格を取得しない場合	神職資格を取る場合	明階総合課程を履修する場合
共通教育プログラム	36単位		
専門教育科目	専門基礎科目(20) ・基幹講義科目(12) ・基幹演習科目(8) ・展開科目(16) 上記超過分または選択科目(8)	「神道文化基礎演習」(2)、「神道文化演習」(2)、基幹演習科目(8)に加えて神職資格課程に必要な科目76単位を取得する	明階総合課程に必要な選択科目(14)
	●共通教育プログラム(36単位)、専門教育科目(64単位)の卒業要件単位を超過して履修した分 ●全学オープン科目		

神職資格を取得する場合、専門教育科目は88単位を取得することになり、これに教養総合科目36単位を合わせて、要卒単位124単位を充たすこととなります。

さらに明階総合課程や教職資格など他の資格※を取得する場合は、要卒単位以上の単位を取得する必要があります。

選択必修科目の選び方や資格科目の履修の仕方の例として、次ページ以降に履修モデル(A～E)を掲げましたので、参考にしてください。

※教職課程など資格取得の履修については、履修要項を参照してください。

## 履修モデルについて

カリキュラムは必修科目を除き、学生は自由に科目を選択して必要な単位数を修得することができますが、神道文化学部では学生が学問の関心に根差して履修が組めるよう基幹講義科目、展開科目、全学オープン科目の履修について、A～Eの履修モデルを作成しています。

▶ p.28以降に掲げる履修モデルのうち、A・B・Cは神職資格課程の履修を視野に入れたものであり、D・Eはそれ以外のモデルとなっています。

▶ 履修モデルは、専門教育科目の選択必修科目となる授業について、学問の関心に沿った一例として掲げているものですので、必ずしも、いずれかの履修モデルに合致させなければならないということではなく、科目は主体的に選択することができます。

履修モデルA	古代・中世の神道史	⇒ p.28
履修モデルB	近世・近代の神道史	⇒ p.28
履修モデルC	神職・神社に関わる社会的実践	⇒ p.29
履修モデルD	宗教文化や宗教学研究	⇒ p.30
履修モデルE	日本の伝統文化・基層文化	⇒ p.30

## 履修モデルにおける履修表

授業科目区分	1年	2年	3年	4年	単位数*	
共通教育プログラム					36	
専門教育科目	専門基礎科目	神道概論 I・II (4) 神道史学 IA・IB (4) 古典講読 IA・IB (4) 宗教学 I・II (4) 神道文化基礎演習 (2)	神道文化演習 (2)			20
	基幹講義科目					
	基幹演習科目			神道学演習 I (4) → 神道学演習 II (4) 宗教学演習 I (4) → 宗教学演習 II (4) 神道史学演習 I (4) → 神道史学演習 II (4) 何れかを選択		8
	展開科目					
	選択科目					
全学オープン科目						

▶次ページ以降に掲げるA~Eの履修モデルの履修表は、赤い枠内の科目について具体的に示したもので、それぞれのモデルで修得する単位数も異なっている。

※履修表の科目のうち、共通教育プログラム、専門基礎科目、選択科目については4年間で取得する単位数のみ記載している。また、各科目の修得単位数が要卒単位を超えている場合は赤字で示している。

## 神職資格課程を取得する場合

神職資格取得に必要な科目(必修科目、選択必修科目等)は、「神道文化基礎演習」「神道文化演習」「基幹演習科目」を除いた専門教育科目にすべて配置されています(⇒p.24・25)。

これらの科目をすべて修得すると、専門教養科目の必修・選択必修の科目を含めて88単位となり、共通教育プログラムの36単位と合わせて卒業に必要な124単位を満たして卒業することが可能です。

共通教育プログラム		36単位
専門教育科目 (64単位以上)	「神道文化基礎演習」・「神道文化演習」・基幹演習科目	12単位
	神職階位取得に必要な科目	◎必修 52単位
		選択必修① 4単位
		選択必修② 4単位
		選択必修③ 16単位
	76単位	88単位
		計124単位

## 明階総合課程について

本課程は4年生次対象次に開講される課程です。卒業と同時に指導的の神職として活躍できる人材を育成することを目的として設置されており、本課程を修了した後、神社本庁の成績審査に合格すれば、「明階」の資格が授与されます。

## 【明階総合課程開講講座表】

	神社本庁規程	授業科目	単位	開講区分	備考
必修	皇室・神宮に関する講義	祭祀学特殊講義	2	半期	講義
	神道教学・教化に関する講義または演習	神道教学特論	2	半期	講義
		神道教化システム論	2	半期	演習
	祭祀実技に関する講義または演習	神社祭式特論	2	半期	演習
	神社の管理運営に関する講義または演習	神社管理特論	2	半期	講義
		神社実務演習	2	通年	講義
現代思潮に関する講義	現代時局論	2	半期	講義	

※本課程は特定の条件を満たし、さらに神職を目指す意志の強固なものに限られます。受講資格や履修手続などの詳細については、入学時に配布される「履修要綱」をご覧ください。

## 履修モデル A

—神道の歴史(古代・中世)を  
学びたい学生—

古代・中世の神社・古典や祭祀に関する学修を中心とした履修モデルです。

1・2年次には、必修科目である「神道史学ⅠA・ⅠB」により古代・中世の神道史の基礎知識を養い、「日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ」で日本の共同体と儀礼文化に関して、「宗教考古学Ⅰ・Ⅱ」で神社や祭祀の起源について学び、3・4年次からは「神道史学演習Ⅰ・Ⅱ」により、文献の読解方法や個別のテーマに即した調査研究の仕方などを身につけ、日本の歴史における神道の位置づけや意義について考察を深めます。

この履修モデルは、神道を形成する伝統文化や歴史を説明できる神職を志す学生の履修に適しています。

### 【神職課程の履修モデル】

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム		英語(12)+選択必修(8)+選択(16)				36
専門基礎科目		(18)	(2)			20
基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		16
	宗教文化科目群					
基幹演習科目群	神道文化科目群			神道史学演習Ⅰ	神道史学演習Ⅱ	8
	宗教文化科目群					
展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	44
	神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ	
	宗教文化科目群					
	伝統文化科目群		仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ		
選択科目						0
全学オープン科目						0
						124

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

## 履修モデル B

—神道の歴史(近世・近代)を  
学びたい学生—

近世・近代の神道思想や思想史に関する学修を中心とした履修モデルです。

神職課程の必修科目である「神道史学ⅡA・ⅡB」により近世・近代の神道の歴史についての基礎を学ぶことを前提に、近世ではさらに「国学概論Ⅰ・Ⅱ」、「神道思想史学Ⅰ・Ⅱ」などで国学や神道思想の展開を学び、近代については「宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ」、「教派神道研究Ⅰ・Ⅱ」などで、より専門的に近代神道の歴史の変遷を学びます。3・4年次には、「神道史学演習Ⅰ・Ⅱ」において近世・近代の神道史上におけるさまざまな具体的課題を探索します。

この履修モデルは、現代の神社のあり方や神道教学の基礎となる近世・近代の神道史および国学・神道思想を熟知し、社頭での活動でも実践できる神職を目指す学生の履修に適しています。

### 【神職課程の履修モデル】

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム		英語(12)+選択必修(8)+選択(16)				36
専門基礎科目		(18)	(2)			20
基幹講義科目	神道文化科目群		神道思想史学Ⅰ・Ⅱ 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ 宗教社会学Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
	宗教文化科目群					
基幹演習科目群	神道文化科目群			神道史学演習Ⅰ	神道史学演習Ⅱ	8
	宗教文化科目群					
展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	40
	神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ	
	宗教文化科目群			教派神道研究Ⅰ・Ⅱ		
	伝統文化科目群					
選択科目						0
全学オープン科目						0
						128

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

# 履修モデル C

—神道の社会的実践を  
学びたい学生—

## 【神職課程の履修モデル】

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム		英語(12) + 選択必修(8) + 選択(16)				36
専門基礎科目		(18)	(2)			20
基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
	宗教文化科目群		宗教社会学Ⅰ・Ⅱ			
基幹演習科目群	神道文化科目群			神道史学演習Ⅰ	神道史学演習Ⅱ	8
	宗教文化科目群					
展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	48
	神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と環境Ⅰ・Ⅱ	
	宗教文化科目群					
	伝統文化科目群			宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ	神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
選択科目						0
全学オープン科目・副専攻						0
						136

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

現代社会における神道に関する学修を中心とした履修モデルです。

「神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ」や「神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB」で祭式の知識や作法を修得し、「神社管理研究Ⅰ・Ⅱ」や「神道教化概論Ⅰ・Ⅱ」で神社実務、神道教化など、神職としてのさまざまな実践の技能を身に付けます。さらに、「神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ」で文化財保護・まちづくり・地域福祉に関する行政・教育機関・福祉団体・NPOなどとの連携を学び、現代における神社の社会的役割を自らが担い手となって果たしていくための能力と意欲を高めていきます。

この履修モデルは、地域社会で即戦力として役立つ能力をそなえた神職を目指す学生の履修に適しています。



## 祭式の國學院

神道文化学部では、奉職先の神社で即戦力になりうる人材を養成するため、充実した設備環境のもとで、神社祭祀演習Ⅰ(2年次対象)、同演習Ⅱ(3年次対象)、同演習ⅢA・ⅢB(4年次対象)を開講し、祭式について徹底した指導を行っています。



## 履修モデル D

—宗教文化を広く学びたい学生—

宗教文化科目を中心に履修するモデルです。

宗教について全般的な知識を学びながら、世界の諸文化への理解を深め、「宗教社会学Ⅰ・Ⅱ」や「比較文化学Ⅰ・Ⅱ」などにより学問的な視野をひろげます。3・4年次では、「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」での調査・発表や議論を通じて、さまざまな宗教文化に関する研究調査法を修得しつつ、プレゼンテーション能力を磨きます。

国際化・グローバル化が進む現代社会のなかで、異文化との相互理解の上で、自文化を説明する能力が求められる職種を志望する学生に適しています。

### 【「宗教文化士」の資格取得を視野に入れた履修モデル】

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数	
共通教育プログラム		英語(12) + 選択必修(8) + 選択(16)				36	
専門基礎科目		(18)	(2)			20	
専門教育科目	基幹講義科目	神道文化科目群				16	
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教社会学Ⅰ・Ⅱ 比較文化学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群				8	
		宗教文化科目群			宗教学演習Ⅰ 宗教学演習Ⅱ		
	展開科目	神職基幹科目群				44	
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ 神道と環境Ⅰ・Ⅱ	宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ 神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ		神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ
		宗教文化科目群		キリスト教文化研究Ⅰ・Ⅱ 仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	教派神道研究Ⅰ・Ⅱ 中東文化研究Ⅰ・Ⅱ 東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ		
		伝統文化科目群					宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ
	選択科目						0
	全学オープン科目						0
						124	

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

## 履修モデル E

—日本の伝統文化を  
学びたい学生—

日本の伝統文化、基層文化に関心をもつ学生のための履修モデルです。

神道を中心に、民俗・慣習・社会規範などにあらわれる日本の伝統文化・基層文化について学び、さらに東アジアをはじめ異文化社会との比較を通じて、日本文化に関する理解を深めていきます。また、武道、書道、芸術、音楽などを体験的に学ぶ機会を得ることもできます。

### 【「宗教文化士」の資格取得を視野に入れた履修モデル】

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数	
共通教育プログラム		英語(12) + 選択必修(8) + 選択(16)				36	
専門基礎科目		(18)	(2)			20	
専門教育科目	基幹講義科目	神道文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	古典講読ⅡA・ⅡB 神道史ⅡA・ⅡB	祭祀学Ⅰ・Ⅱ	20	
		宗教文化科目群		宗教考古学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群				8	
		宗教文化科目群			宗教学演習Ⅰ 宗教学演習Ⅱ		
	展開科目	神職基幹科目群			古典講読ⅢA・ⅢB	32	
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道と環境Ⅰ・Ⅱ		
		宗教文化科目群					
		伝統文化科目群		神道と武道Ⅰ・Ⅱ	宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ 東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ		宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ 神道と書道Ⅰ・Ⅱ
	選択科目						0
	全学オープン科目			文化人類学Ⅰ・Ⅱ	伝承文学史Ⅰ・Ⅱ 日本民俗学Ⅰ・Ⅱ	伝承文学思想	14
						130	

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

# 宗教文化士について

「宗教文化士」とは、日本や世界の宗教の歴史と現状について、一定の理解を得た人に対して与えられる資格です。とくに社会の中で活かせる知識を養っていることが求められます。

資格を得るためには、大学において次の3つの到達目標に対応した科目合計16単位以上を履修し、認定試験に合格することが必要です。

- 1 教えや儀礼、神話を含む宗教文化の意味について理解できる。
- 2 キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。
- 3 現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができる。

## 認定科目

神道文化学部のカリキュラムでは、以下の科目が宗教文化士の認定科目となっています。

( )は上に掲げる到達目標

神道概論 I・II (2)	神道史学 IA・IB (2)	宗教学 I・II (1・2・3)
神道史学 IIA・IIB (2)	神道思想史学 I・II (2)	国学概論 I・II (2)
世界宗教文化論 I・II (1・2)	日本宗教文化論 I・II (1・2)	宗教考古学 I・II (2)
宗教社会学 I・II (1・2・3)	比較文化学 I・II (1)	神社祭式概論 I・II (1)
神社ネットワーク論 I・II (2・3)	宗教行政研究 I・II (3)	神道と国際交流 I・II (2・3)
神道と環境 I・II (2・3)	神道と情報化社会 I・II (2・3)	教派神道研究 I・II (2)
キリスト教文化研究 I・II (1・2)	仏教文化研究 I・II (1・2)	中東文化研究 I・II (1・2)
東アジア文化研究 I・II (1・2)	宗教芸術研究 I・II (2)	宗教音楽研究 I・II (2)
神道と武道 I・II (2・3)		

認定試験は記号選択式(50問)と論述式(1問)からなり、國學院大學も試験会場の一つです。



詳しくは、宗教文化教育推進センターのホームページをご覧ください。  
[www.cerc.jp](http://www.cerc.jp)



# 演習について

大学の授業の形式には、教員が教壇に立ち、学生に向かって話しながら進めていく「講義」のほかに、教員が与えた課題やテーマについて、学生が自分で調べたことを発表し、またほかの学生の発表を聴いて質疑応答や議論を行う「演習」があります。

神道文化学部では、このような演習科目が4年間のカリキュラムのなかに連続して設定されています。すなわち、1年次に「神道文化基礎演習」、2年次に「神道文化演習」、3・4年次には「神道学演習」、「宗教学演習」、「神道史学演習」のいずれかの基幹演習科目を履修します。



## 神道文化基礎演習 1年次 神道文化・宗教文化を学ぶ基礎力を身に付ける

これからの大学生活において、神道を中心とする日本の伝統文化や内外のさまざまな宗教文化を学習・研究していく上で必要な基礎学力を修得します。

具体的には、神道の基礎知識についての小テストの実施や課題図書に対する読後レポートの作成、神道や宗教に関する発表などを行います。とくに発表に臨んでは、レジュメの作成方法や発表の手法を学んだ後、グループワークを数回行って、発表の内容を深めていきます。

このほか、神道資料が展示されている國學院大學博物館を見学し、モノを通じて神道の歴史を学びます。

## 神道文化演習 2年次 専門演習への架け橋、基礎学力を確実なものにする

神道・宗教に関する文献や資料をもとに調査研究を進め、その成果についてレポートを作成し、発表を行います。これにより、文献・資料の調査能力や読解力、レポート・論文の作成能力、発表でのプレゼンテーション能力をさらに向上させるとともに、3年次以降に専門的な研究を行っていく上で基盤となる能力を培います。

また、外部の神社関係者による講話や奉職・就職に関するガイダンスも開催され、奉職や就職に対する心構えや助言を受けて、3年次以降本格化する奉職・就職活動に備えます。

## 基幹演習科目 3・4年次 主体的な関心に基づき、本格的な学修を進める

神道・宗教に関するテーマを設定して専門的な調査研究を行い、その成果を発表するとともに、レポート・論文を作成します。

具体的には、自らがテーマと研究計画を立て、担当教員の指導を受けながら調査研究を進めていき、発表においては、ほかの学生との議論を通じて互いに問題関心を共有しつつ、研究を深めていきます。通常3年次に中間レポート(6,000字程度)、4年次の最後には演習論文(12,000字程度)を作成し、大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげます。

## IV キャンパスライフ

### 学生生活を彩る神道文化学部のイベント

観月祭(p.14)や成人加冠式(p.15)のほか、神道文化学部が主催する行事を紹介します。

#### アイスブレイク (4月)

神道文化学部では、平成26年より新入生のためのアイスブレイクを開催し、「友達作り」・「仲間作り」のための独自の企画を実施します。



#### 田んぼ学校 (6月：田植え・10月稲刈り)

財団法人日本文化興隆財団の企画・運営による行事で、稲作体験を通じて子どもたちに「日本人とお米」を再発見してもらおうとともに、「お米に感謝」の気持ちを伝えるため、埼玉県越谷市鎮座の古宮神社(宮司：茂木貞純神道文化学部教授)および地域の田んぼを会場にして開催されます。



#### 千度大祓 (8月)

いわき「大祓」の会主催の行事で、東日本震災で亡くなられた方々を慰霊し、復興を祈願します。

平成24年以来、神道文化学部において神職課程を履修する学生有志が参列し、地元から全国から参集した方々とともに、大祓詞を全員で奏上します。



# 資料室・修学相談室について

## 神道文化学部資料室

神道文化学部では、学生が専門的な文献に身近に接することのできる環境として、各種資料を資料室に所蔵し、閲覧できるようにしています。研究室と同じフロアーにあり、資料室員がおりますので、お気軽におたずねください。

- **場 所**：渋谷キャンパス若木タワー17階
- **利用時間**：(月～土)9：30～17：30(但し、土曜日は隔週)
- **閉 室 日**：日曜日、祝日、大学の行事日
- **利用対象者**：本学教職員、学生、本学図書館の紹介者
- **利用方法**：所蔵資料の閲覧、複写(学内施設でのコピー)
- **検索方法**：國學院大學図書館OPAC“K-aiser”を利用してください。

資料室所蔵資料の書誌データも収録されています。

- ・資料室には、古典・神道史・神社史などの専門図書・雑誌があり、利用時間内であれば閲覧できます。
- ・本の貸し出しは致しません(コピーは可、コピー持ち出しをした場合は、その日の資料室閉室時間までに返却してください)。
- ・和綴本のコピーはできません。



神道文化学部資料室員  
堀口 裕美子

## 神道文化学部修学相談室

神道文化学部修学相談室では、学務補助員が学部生のみなさんの履修・勉学上の相談に応じています。履修登録、演習科目選択、授業や論文・レポートに関する疑問についてアドバイスします。また、演習で使用するレジュメ(資料)のコピーも受け付けています。大学生活における疑問等にもおこたえしておりますので、お気軽におたずねください。

- **場 所**：渋谷キャンパス若木タワー17階
- **利用時間**：(月～土)10：30～18：30(但し、土曜日は隔週)
- **閉 室 日**：日曜日、祝日、大学の行事日

# オフィスアワーについて

神道文化学部では、専任教員が学生の修学に関する相談に対応できるようにオフィスアワーを設けています。

オフィスアワーの曜日・時間帯は年度により異なりますので、神道文化学部資料室前の掲示をご確認ください。

# V 入学案内

## アドミッション・ポリシー

### 求める人材、期待される入学者像

國學院大學神道文化学部は、神道を中心とする日本文化への高い関心と、国内外の宗教文化を広く学ぼうとする意欲とを持ち、宗教・文化の継承者として、人々の共存や社会の発展に寄与しようとする人材を受け入れます。具体的には、次のような意欲・意志を持って、学びの成果を社会に活かそうとしている人材を求めています。

- (1) 神道の歴史・思想を学ぶ意欲を持つ者
- (2) 神道の社会的実践について学ぶ意欲を持つ者
- (3) 日本の伝統文化を深く学ぶ意欲を持つ者
- (4) 世界の宗教文化を広く学ぶ意欲を持つ者
- (5) 神社や神道系宗教団体の後継者を志す者

### 入学者選考の観点

人材受け入れのため、次の観点から受験生を選考します。

- (AP1) 神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化(以下「神道文化・宗教文化」)に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉
- (AP2) 他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉
- (AP3) 神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※具体的な入試制度と観点との関連は別表(⇒p.36・37)の通りです。

### 入学までに身に付けるべき教科・科目

神道文化学部に入学者には、入学後の教育内容との関係上、「国語」「地理歴史」「公民」「外国語(英語)」の学習を求めます。



#### 神 殿

天照大御神を主神とし、天神地祇八百万神を奉祀します。

昭和5年、皇典講究所理事で実業家の和田豊治の寄付を受けて大学構内に創建され、同年5月1日に御鎮座奉祝祭を執行しました。以後、毎年5月1日には神殿鎮座記念祭を斎行しています。また、新年をはじめ、年間の恒例祭祀や毎年の月次祭のほか、創立記念日や入学式・卒業式などの式日にも祭典を斎行しています。

# 神道文化学部の入試制度

入試制度		選考方法		評価の観点			備考
				AP 1	AP 2	AP 3	
学校推薦型選抜・総合型選抜	神道・宗教特別選考 (Ⅰ期・Ⅱ期)	1次選考	調査書等	◎		○	神道文化学部の学修に必要な学力、特に、神社・宗教団体の担い手となる意志を持って学ぶ態度を有する受験生を選考します。 面接では態度を、試験会場で作成する小論文では思考力・表現力を主に問います。
			推薦書等			◎	
		2次選考	小論文	○	◎		
			面接試験		○	◎	
	神職養成機関 (普通課程)特別選考	面接試験			○	◎	神社神職になる意志を持って学ぶ態度を有しているかどうか主に主眼を置いた選考をします。
	公募型自己推薦 (AO型)	1次選考	レポート	◎	○		神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。 面接試験・自己推薦書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 1次選考のレポートでは、主に知識や文章表現のための技能を問います。 2次選考時に試験会場で作成するレポートでは、主に思考力・表現力を問います。
			自己推薦書		○	◎	
			活動報告書・添付資料		○	◎	
		2次選考	レポート	○	◎		
	面接試験			○	◎		
	院友子弟等特別選考	1次選考	志望理由書		○	◎	面接試験・志望理由書では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 1次選考のレポートでは、主に知識や文章表現のための技能を問います。 2次選考時に試験会場で作成するレポートでは、主に思考力・表現力を問います。
			レポート	◎	○		
		2次選考	レポート	○	◎		
			面接試験		○	◎	
	学士・一般編入学	小論文		○	◎		面接試験では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 試験会場で作成する小論文では、主に思考力・表現力を問います。
		面接試験			○	◎	
	社会人特別選考 (Ⅰ期・Ⅱ期)	小論文		○	◎		面接試験では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 試験会場で作成する小論文では、主に思考力・表現力を問います。
		面接試験			○	◎	
外国人留学生	日本語小論文		○	◎		面接試験では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。	
	面接試験			○	◎		
系列三高校推薦	調査書		◎		○	面接試験では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。	
	面接試験			○	◎		
協定校推薦	調査書・志望理由書等		○		○	面接試験・自己推薦書・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 レポートでは、主に思考力・表現力を問います。	
	レポート			○			
	面接試験			○	○		
指定校制度推薦	調査書		◎		○	面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。	
	志望理由書			○	◎		
	面接試験			○	◎		
スポーツ推薦	調査書・志望理由書		○			面接試験・志望理由書では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 試験会場で作成する小論文では、主に思考力・表現力を問います。	
	小論文			○			
	面接試験				○		
一般選抜	V方式		大学入試センター試験			神道文化学部での学修に必要な知識や表現力を持つ受験生を選考します。	
	A日程 (3教科型・得意科目重視型・学部学科特色型)		◎	○			
	B日程						

※○は重視する観点、◎は特に重視する観点です。

評価の観点は次の通りです。

(AP 1) 神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化(以下「神道文化・宗教文化」)に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉

(AP 2) 他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉

令和3年度入試(令和2年・3年(2020・21)実施)		特色
出願期間	試験日	
【I期】9月23日(水)～9月30日(水) 【II期】2月5日(金)～2月15日(月)	(書類選考) 【I期】10月25日(日) 【II期】3月2日(火)	神道特別選考は神社神職の子女で、自身も神職として神明奉仕をする使命を持つ受験生を選考します。入学した場合は神職課程の履修が義務付けられています。 宗教特別選考は神道系教団を担う方々の子女で、自身も教団を継承する使命を持つ受験生を選考します。 II期はフレックスAのみの募集です。
9月23日(水)～9月30日(水)	10月25日(日)	神職課程で資格を取得する意志を持つ、全国の神職養成機関出身者を選考します。フレックスAのみの募集です。
10月5日(月)～10月9日(金)	(書類選考) 11月15日(日)	神道文化学部への学びへの興味・関心と修学意欲を高く評価します。次のいずれかを学びたいことが出願要件です。 ①古代の神道史・神社の学修・研究 ②近世・近代の神道思想や制度の学修・研究 ③祭式・神社実務の学修・研究 ④宗教・宗教文化の学修・研究 ⑤比較宗教文化・国際化の学修・研究 ⑥現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究
9月2日(水)～9月9日(水)	(書類選考)	院友会の会員の親族で、神道文化学部を第1志望とする受験生を選考します。
10月12日(月)～10月16日(金)	11月15日(日)	
10月12日(月)～10月16日(金)	11月15日(日)	他大学や短大卒業(専門学校は除く)の受験生を選考します。
【I期】10月12日(月)～10月16日(金) 【II期】2月5日(金)～2月15日(月)	【I期】11月15日(日) 【II期】3月2日(火)	社会人(就業経験不問)の受験生を選考します。
10月12日(月)～10月16日(金) 【窓口：10月13日(火)】	11月29日(日)	外国籍で所定の資格を有する受験生を選考します(日本の高校を卒業した方は出願できません)。
11月2日(月)～11月6日(金)	11月29日(日)	本学の系列にある高校(國學院高等学校・國學院久我山高等学校・國學院栃木高等学校)に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月2日(月)～11月6日(金)	11月29日(日)	本学と協定を締結している高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月2日(月)～11月6日(金)	11月29日(日)	本学が指定する高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月2日(月)～11月6日(金)	11月26日(木)	スポーツ競技で秀でた技量を持ち、神道文化学部の学びに関心を持つ受験生を選考します。
1月4日(月)～1月15日(金)	1月16日(土)・17日(日)	大学入試センター試験を利用する入試です。神道文化学部は、外国語と国語が必須で、地理歴史・公民・数学のうち高得点の1科目を選択します。
1月4日(月)～1月21日(木)	【3教科型】2月2日(火) 【得意科目重視型】2月3日(水) 【学部学科特色型】2月4日(木)	外国語・選択科目(日本史、世界史、政治・経済、数学)・国語の3科目による入試です。得意科目重視型は、3科目の中で最高成績の科目を高く評価し、学部学科特色型は、国語と成績上位の他の1科目で選考します。
1月4日(月)～2月22日(月)	3月2日(火)	外国語と国語の2科目による入試です。

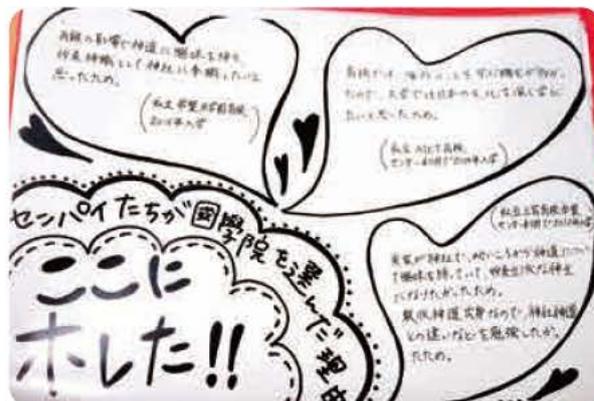
(AP3)神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

※詳細な出願資格など、入試制度の詳細は必ず入学試験要項を入手して下さい。  
※入試制度に関する問い合わせ先：総合企画部入学課(03-5466-0141)

# オープンキャンパス 渋谷キャンパスで開催(神道文化学部)

令和2年

6月7日(日) 8月22日(土)・23日(日) 9月20日(日)



神道文化を体験したい



舞楽体験



舞楽体験

学生生活・就職(奉職)などいろいろ聞きたい



授業の様子を知りたい



オープンキャンパスで行われる内容は、日程によって異なります。  
詳細はウェブページでご確認ください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp>





神道文化学部 ホームページ・Facebook

神道文化学部では、ホームページとFacebookの公式アカウントを開設しています。  
学部の行事やイベントの案内をはじめ、神道文化学部を身近に感じてもらえる情報を発信しています。

神道文化学部ホームページ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/shinto>



神道文化学部Facebook

<https://www.facebook.com/kokugakuinshinto>



こくぴょん

「こくぴょん」は國學院大學の公式キャラクターです。  
神道文化学部のこくぴょんは舞楽装束に身を包み、  
伝統文化を重んじるイメージとメッセージを体現しています。

令和2年度 國學院大學

## 神道文化学部 神道文化学科

GUIDE BOOK

ガイドブック

令和2年(2020)4月1日 発行

編集 國學院大學神道文化学部教務委員会

編集担当 星野光樹 鈴木聡子

発行者 國學院大學神道文化学部

学部長 西岡和彦

〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10番28号

印刷所 株式会社 秀飯舎

表紙写真 ヘィヴンズノルマン

写真 武田秀章 総合企画部広報課  
神道文化学部教員・学生有志

\*無断複製を禁じます。

